

F1 レースを原点とする企業風土改革 －限界突破プロジェクトで人材を育てる－

ビジネスコンサルタント 北元 徹氏

講師はホンダの F1 のプロジェクトチームでの経験を原点に、山田製作所のトップとして、世界 1 位を目指して戦う風土づくりに取り組んできた。

山田製作所の社長に就任した当時は、ホンダの下請け町工場としての体質が強く、QC の顧客志向は薄い、Delivery の部分だけは必死に頑張るというのが特徴。自立企業として何としても成長させる、変革する。経営トップとして「ヤマダマネジメントガイド」「ヤマダモチベーションストーリー」という変革のための思考と実践へのメッセージを発信し続けた。

「ヤマダマネジメントガイド」(YMG) は管理職に向けたガイドである。その都度タイムリーな問題に対して、山田製作所のトップとして言葉を発信した。「ヤマダモチベーションストーリー」(YMS) は若手向けに発信したメッセージである。講師自身が実践したことしか書いていない。もちろんゴーストライターはおらず、毎回印刷に間に合うように苦心しながら、自らの言葉で書いてきた。響く集団に変わり始めた。

F1 では、レースで勝つこと、世界一になることを目標に走り続けてきた。1 秒の遅れでシーズン全部を棒に振る勝負であるため、学んだことはすぐ実践する。レースはまず勝つことが目的であり、二位は評価外である。こんな仕事の中で、モチベーションというものを知らず知らずのうちに叩き込まれ、当たり前のことになっていた。この世界一を目指すスピリットを育てることにまい進した。

講師は仕事に向かう基本的な姿勢を本田宗一郎氏から受け継いでいる。本田氏は、貴重な時間を無駄にする人間を許さなかった。これからの時間は金で買うことができて、一度無駄になった時間は戻らない。人生は時間の集積であり、時間をうまく利用した人間が成功者になる。また理念がベースにあって、そこから商売がある。商売だけが先にある人間を本田氏は好まなかった。

5 年間のうちに、3~4 年は YMG、YMS を作って意識改革に徹底的に取り組んだ。山籠り合宿や、社員と社長の昼食懇談会などの新たな施策も打った。「戦いながら城を築け」「3%理論（この指とまれで提案し、3%の賛同者がいればそこから広げてさらに3%、次の3%と広げていく）」などの考え方を根付かせるために、発信を続けた。

講師は山田製作所の経営トップとして改革を推進し、社長最終年度である 2011 年度には、山田製作所はホンダ優良感謝賞において品質、コスト、パーツ部門でトリプル受賞の異例の快挙を達成した。三冠はサプライヤー400社中、山田製作所のみである。自信とプライド、「やればできる」という意識はできたのではないかと考えている。